

総社の企業

病と闘う子に シルクマスク

川崎医大病院へ寄贈

インターネットを通じてシルク製品を販売する香音（総社市清音上中島）は24日、川崎医科大付属病院（倉敷市松島）の小児科病棟に、シルク製の子ども用マスク250枚を寄贈した。

新型コロナウイルス禍で着用の機会が増える中、通気性に優れ、肌触りが良い素材のマスクを、難病と闘う子どもたちに届けようという企画。8月にクラウドファンディングで支援

を募り、約140人から約75万円を集めた。この日、湯口尚美代表が病院を訪れ、「息苦しくならず、体に良い素材を使っている。ぜひ役立ててほしい」と楠原明子看護副師長にマスクを手渡した。楠原さんは「小さい子どもも今はマスクが手放せない。ありがたい」とお礼を述べた。看護師向けにも医療用マスクの内側に入れて使えるシルク製インナーマスク30枚を贈った。



シルクマスクを手渡す湯口代表（左）

このほか、病気の子どもを支援する岡山市内のNPO団体にも約100枚を届けると予定。

（岡田みなみ）